

行政・企業防災・危機管理実務演習 最終発表

社内防災訓練の実効力向上を目指して ～くじ引きを活用した条件付与型災害対応訓練の考察～



2023年3月13日
徳島大学 森口 浩史

1

(株)松本コンサルタントの概要

- ✓ 従業員数 220名
- ✓ 本社 徳島県徳島市東吉野町
- ✓ 支店 香川県、高知県、愛媛県、和歌山県、奈良県、千葉県など計18拠点
- ✓ 事業内容 国土調査、GIS関連ソフト開発及び販売、GISデータ構築及びデータ処理、建設コンサルタント、補償コンサルタント、地質調査、調査・測量全般
- ✓ その他 徳島県企業BCP認定（2016年～、南海トラフ地震対策がメイン）、徳島県測量設計業協会など所属協会を通じて災害協定を締結（7団体）



2

当社の課題は・・・？

(株)松本コンサルタントの課題 = **訓練の実効性**

- ✓ 従来の訓練：年1回実施の全社訓練
(避難訓練、情報伝達訓練、緊急対策本部運営訓練)
- ✓ 毎年実施してはいるものの・・・
 - 全て台本通りの訓練、毎年ほぼ同じ内容
 - 特に被災時の事業継続の要となる緊急対策本部運営訓練の実効性に不安

→ テーマ設定：実効性の高い訓練手法の検討

3

ゴールの設定

【本テーマにおけるゴール】

→ 災害時の対応力強化等を含めた 訓練の実効性向上 と毎年訓練を実施する中でマンネリ化を防ぎ、継続して効果が得られる訓練の考察を目的として、以下の2点を達成できる訓練手法を考察する。

- ①【実効性】
災害時に発生する同時多発的な問題への対応力を向上させられる訓練であること
- ②【継続性】
毎年訓練を実施するうえで、継続しやすく、かつ訓練の効果が持続可能な仕組みであること

4

訓練手法の検討

✓訓練手法の検討にあたっては、

- ①一度の訓練で多数の問題について取り扱えること、
 - ②比較的短時間で、訓練運営の負担が少ないこと
- を重視した。情報収集を行う中で、下記の訓練手法が目的に合致していると考え、これを基に訓練の構築を行った。

くじ引きを活用した条件付与型災害対応訓練

(参考：訓練革命 コスト時間をかけず継続できる 株式会社ディスコ | 誌面情報 vol39 | リスク対策.com | 新建新聞社 (risktaisaku.com))

5

訓練手法の検討

✓手順

- ①災害時に想定される課題(意思決定者の不在、社屋の倒壊 等)で「くじ」を作成
- ②1班4人程度のグループに分かれて「くじ」を引き、書かれている課題への対応を検討する
※検討する課題はグループごとに異なる
- ③グループごとに検討結果を発表する
- ④検討結果に対するフィードバック
- ⑤問題解決のための改善点を抽出し是正処置を決定する



6

訓練の準備

✓くじの作成

➤くじは南海トラフ地震の被害を想定し、

- ①社内設備に関する内容
- ②社員に関する内容
- ③外部要因に関する内容

の3つのグループに分け、計14枚作成した。

➤進行側で各くじの内容設定の狙いを明確にし、意見に対するフィードバックをスムーズに実施できるようにした。

✓くじの内容例

内容：津波による浸水で測量機材・社有車が使用不可に

ねらい：機器材・社有車の調達ルートの確認、調達する場合の期限は？

他社や支店からの借用は可能か？

代替品の有無は？

7

訓練の準備

✓タイムラインの作成

16:00~16:05 進行挨拶、説明

16:05~16:30 くじ引き、対応と対策の検討

16:30~16:40 検討結果の共有

16:40~16:50 意見交換、フィードバック

16:50~16:55 改善点の抽出

16:55~17:00 是正処置および処置期限の決定

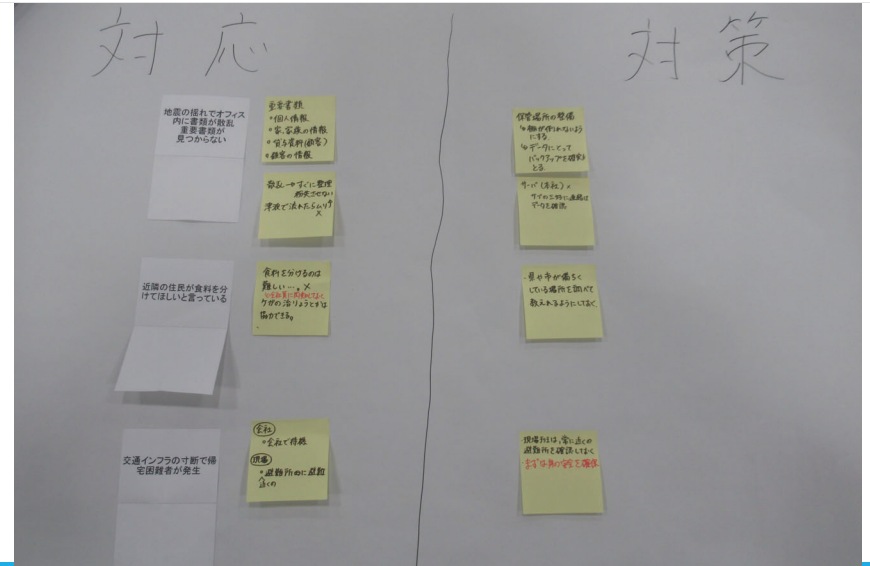
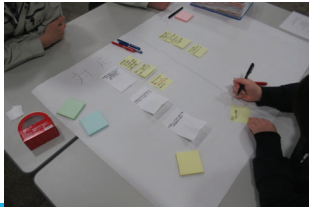


長時間の訓練の実施は負担が大きいと考えたため、1時間で訓練を終了できるように設定した。

8

訓練の実施

参加者6名(若手社員3名、管理職2名、BCP担当1名)+進行1名(森口)



訓練の成果

✓ 是正処置および処置期限の決定

【是正処置】①災害支援要請対応表の作成・周知

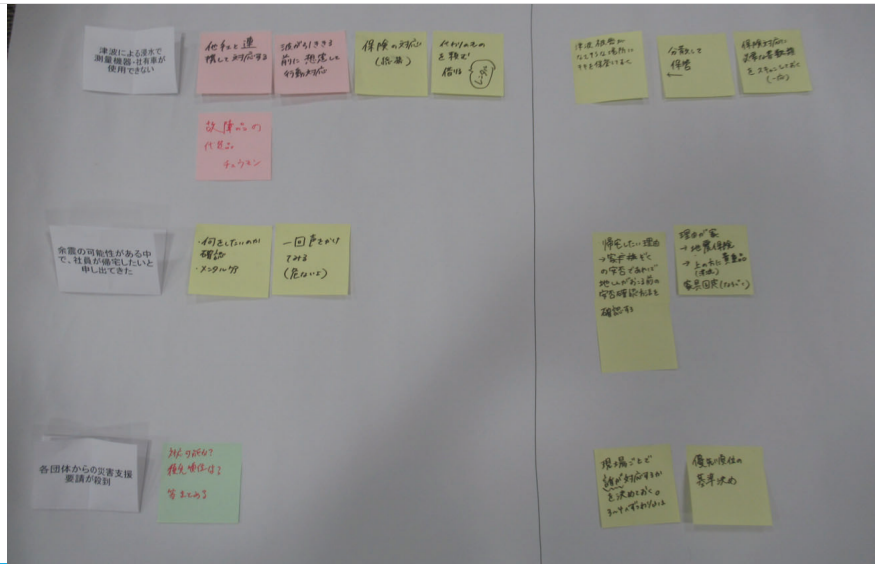
- ②「災害時の対応として会社として社員に周知しておくべきこと
(会社として社外からの要請にどのように対応するか、自宅へ戻る判断基準等)について全社員へ教育訓練を実施する。」

【処置期限】①訓練後 1 週間以内

- ②毎年 6 月のBCP改訂内容周知時に併せて教育訓練を実施

※④については、対応表は既に作成していたため、今回の意見を受けて速やかに周知を行った

参加者同士で情報共有ができていたため、BCP担当からの一方的な押し付けではなく、参加者の総意として処置を決定することに成功した。



従来の訓練手法（シナリオ提示型）との比較



良い点

- ・事前準備の負担が軽い
- ・1班当たりの人数が少なく、参加者一人ひとりが意見を出しやすい
- ・決まったシナリオがないため、**その場で考える力を身に着ける**ことができる。
- ・BCP担当からの一方的な指示ではなく、双方向での意見交換が可能
- ・複数班に分けて訓練を実施することで、一度に**多くの情報を共有**することができる
- ・訓練形式は同じでも検討するテーマがランダムに決まるため、マンネリ化を防止できる
- ・**くじの内容を変えることで、手軽に様々な事象に対応できる**訓練に変更できる。

13

従来の訓練手法（シナリオ提示型）との比較



課題点

- ・一度に訓練を実施できる**人数に限りがある**。
- ・限られた時間で実施する都合上、進行役の技量により、訓練を通して得られる知識や共有できる情報量が大きく左右される。訓練の継続にあたっては、**進行役のスキルアップが必要不可欠**となる。
- ・情報の共有の仕方を工夫しておかなければ、せっかく出された意見が参加者の中だけでとどまってしまう。

14

まとめ

1度の訓練実施ではあったが、「くじ引きを活用した条件付与型災害対応訓練」は、以下の点からゴール達成に非常に期待が持てる手法であると考えます。

- ① 毎回検討する課題がランダムで、その場で考える力を身に着けることができる。
- ② 一度の訓練で多くの情報を共有することができる
- ③ 事前の準備がシナリオを構築する場合と比較して非常に少なく、負担なく続けやすい
- ④ くじの内容を変更することでマンネリ化の防止と様々な被害想定への対応が可能



今後は本訓練を社内に浸透させ、繰り返し実施することでBCPの実効力向上に繋げていきたい。

15

ご清聴ありがとうございました

16